東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年1月 27

イスラームにおける妬み・嫉妬

親愛なるムスリの様

人間には優れた特質や才能と共に、望まれないいくつかの性質があります。その一つが妬みです。妬みとは他者が手にしている恵み、地位、階級にがまんができず、その人がそれを失えばいいと願うことです。妬みはイスラームの道徳、礼儀において醜悪な性質と見なされます。妬みに対することばは羨望です。これは他者が持っているよさや恵み、徳が自分にもあればいいなと願うことです。これはイスラームで認められているものです。実際預言者ムハンマドは次のように仰せられました。「ただ二種類の人が羨望される。一つはアッラーが財産を与えられ、真実の道で費やすことを可能とされた人、もう一つはアッラーが知識を与えられ、それによって行動し他者にも教える人である。」

妬みが禁じられ、悪く見なされる理由は、妬む人が間接的にアッラーの定められたことに対立しているからです。なぜなら人に各種の恵み、地位や階級、優位さ、善を与えられるのはアッラーだからです。だから他者が持っている恵みを妬むことは神の分配への不満であり、ある意味それに満足しないことなのです。彼にとっていいのはその与えられた状態であるかもしれないのです。クルアーンでは次のように言われています。「アッラーがあなたがたのある者に、他よりも多く与えたものを、羨んではならない。」（婦人章第３２節）預言者ムハンマドは「妬むことから遠ざかっていなさい。なぜなら火が薪を焼き尽くすように、妬みは善を食い尽くしてしまうからです」と言われています。アッラーはすべてのしもべに恵みを与えられます。他者が持つものに目をつけ、それを妬みながら生きるのではなく、自分が手にしているもの、自分の努力で得たものに満足し、その価値を知ることはしもべであることにより適した行為です。イスラーム学者たちが一種の魂の病と見なしている妬みの感情は、他者が自分よりもいい状態であることに耐えられないことから生じています。この状態は人を苦しめ、不幸にします。嫉妬は、隣人、兄弟、友人、同僚の間でよりよく見られます。この病を見出した人はアッラーへと向かい、クルアーンで教えられているように「また、嫉妬する者の嫉妬の悪（災厄）からご加護を請い願う」（黎明章第５節）というべきです。

妬みから救われるための最初の手段は、アッラーが与えられたものに満足することです。なぜなら満足感が心に与えた豊かさは尽きることのないものであるからです。アッラーの使徒は「満足は、無尽蔵の宝庫である」と言われています。

今日の不図場を、クルアーンでのドゥアーで締めくくります。「主よ、わたしたちと、わたしたち以前に信仰に入った兄弟たちを、御赦し下さい。信仰している者に対する恨み心を、わたしたちの胸の中に持たせないで下さい。主よ、本当にあなたは、親切で慈悲深くあられます。」（集合章第１０節）